

葬送式

この式は洗礼を受けない者、明らかに大罪を犯して悔い改めない者、自殺した者には用いない。

司式者は棺を迎え、これにさきだつて聖堂あるいは墓に行くとき、次の聖語の一節または数節を歌いあるいは唱える。

葬禱

主言いたもう、我はよみがえりなり、命なり、我を信ずるものは死ぬとも生きん。おおよそ生きて我を信ずるものはとこしえに死なざるべし。ヨハネ伝一章二五、二六節

われ知る、我を贖う者は生く、後の日にかれ必ず地のうえに立たん。わがこの皮、この身の朽ち果てん後、われ肉を離れて髪を見ん。われ自ら彼を見たてまつらん。わが目かれを見んに、知らぬ者のごとくならじ。ヨブ記一九章二五―二七節

我らは何をも携えて世にきたらず、また何をも携えて世を去ることあたわず。主あたえ、主取りたもうなり、主の御名はほむべきかな。テモテ前書六章七節、ヨブ記一章二―一節

聖堂に入りあるいはは墓に行つて次の詩の一篇または二、三篇を歌いあるいは唱える。

詩九〇篇

主よ、とこしえの平安を彼に与え
絶えざる御光をもて照らしたまえ

詩三九篇

主よ、とこしえの平安を彼に与え
絶えざる御光をもて照らしたまえ

詩百三十篇

主よ、とこしえの平安を彼に与え
絶えざる御光をもて照らしたまえ

ここでコリント前書第一五章二〇節から二八節、三五節から三八節、および四二節から五八節まで、またはコリント後書第四章一六節から第五章一〇節までを朗読する。

一同立つ

司式者

主よ、あわれみたまえ

会衆

キリストよ、あわれみたまえ

司式者

主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえアーメン

司式者

主よ、しもべのさばきにかかわりたもうなかれ

会衆

そは生けるものひとりだに御前に義とせらるるはなし

司式者

主よ、とこしえの平安を彼にあたえたまえ

会衆

絶えざる御光をもて照らしたまえ

司式者

われ生ける者の地において主のいつくしみを見るたのみなくば

会衆

わが望みはいかにぞや

司式者

主なんじらとともにいますことを

会衆

主なんじの霊とともにいますことを

司式者

我ら祈るべし

次に左の祈りの全部または一部を用いる。さらに諸聖徒日、復活前日、三位一体後第十二主日の特祷等、適当な祈りを選んで用いてもよい。

全能の神よ、主にありて世を去る者の霊、主とともにおりて生きながらえ、主を信ずるものの魂、肉の重荷をおろすのち、主とともにおりて樂しむ。願わくは主のしもべ（――）をあわれみ、この世にておかせ罪をことごとく赦し、終わりの日に彼を正しき者とともによみがえらせ、天の御国に至り、主の聖徒とともに住まわせたまえ。我らの贖い主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

全能の神よ、全うせられたる義金の魂は主とともに生きながらう。我ら今、主のしもべ、愛する兄弟の魂を、世の造り主、慈悲ふかき救い主にゆだね、これを尊

きものと認めたまわんことをこいねがい奉る。願わくは世の罪を除くためにほふられたまいし子羊の血にて洗い、この世にて肉の欲、悪魔のいざないによりて受けし汚れを清め、傷なき者となりて主の御前にいざることを得させたまえ。また我ら世にある者、おのが命のはかなきを悟り、その日をかぞえ、限りなき命に至る知恵を得させたまえ。ひとりの御子、我らの主イエス・キリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

万民の父なる神よ、世を去りし兄弟のために祈り奉る。願わくは主の平安をかれに与え、とこしえの御光をもて彼を照らし、いつくしみ深き知恵と全能の御力とをもって、主のまつたき御旨を成し遂げたまわんことを、主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

願わくは世を去りし者の魂、主のあわれみによりて安らかにいこわんことを。アーメン

聖餐式

葬禱につづいて聖餐式を行なうときは次の特禱、使徒書、福音書を用いる。

特禱

すべての人の造り主、贖い主なる神よ、願わくは主のしもべ（――）の魂をみそなわし、御子の苦しみのいさおによりて、その量るべからざる恵みを受け、終わりの日に世を去りしすべての忠義なるしもべとともに、喜びて主の御顔を仰ぎ見ることが得させたまえ。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう御子イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

使徒書 テサ 四章一三―一八

福音書 ヨハ 六章三七―四〇

告別

葬禱または聖餐式につづいて次の告別を用いてもよい。
司式者は棺のかたわらに立って次のように言う。

ロマ書八章三八、三九節

ロマ書一四章八、九節

ヨハネ伝一四章二節

司式者 主よ、あわれみたまえ
会衆 キリストよ、あわれみたまえ
司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ アーメン

司式者 主よ、よみの門より
会衆 彼の魂をすくいたまえ
司式者 彼を安らかにいこわせたまえ
会衆 アーメン
司式者 主なんじらとともいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
司式者 我ら祈るべし

常に我らをあわれみて赦したもう神よ、願わくは御定めによりて世を去りし主のしもべ○のためにささぐる祈りを聞こし召し、彼をあだの手に渡すことなく、御使いに命じてパラダイスに迎え入れしめたまえ。彼は主を望み、主を信じたれば、主の大きいなるいつくしみによりて限りなき喜びをうることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

全能の神、慈悲の父よ、悲しむ者に御力を与えたまわんことを、せつに祈り奉る。願わくはすべての思い煩いを主にゆだね、主の愛の慰めを悟ることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

司式者 主よ、とこしえの平安を彼にあたえ
会衆 絶えざる御光をもて照らしたまえ
司式者 願わくは世を去りし幼な子の魂、主のあわれみによりて安らかにい
こわんことを
アーメン
会衆

埋葬

墓に行き棺をおろす間、司式者は墓のかたわらに立って、次の語を唱えまたは会衆とともに歌う。

女より生まれし者はその日少なくて、なやみ多し。そのきらること花のごとくにして散り、その馳すること影のごとくにしてとどまらず

我ら、いのちの半ばにも死に臨む、我らの罪を怒りたもうことは、まことに正し。されど主のほかに、たれにか助けを求むべき

至聖なる神、いと強き主、聖にしてあわれみ深き救い主よ、我らを限りなき死の苦しみに至らせたもうなかれ

我らの心の秘密を知りたもう主よ、我らの祈りにあわれみの耳を閉じたもうなかれ

至聖なる神、いと強き主、聖にしてあわれみ深き救い主、とこしえにいます正しきさばき主よ、我らを赦し、臨終のとき死のなやみのために主を離れることなからしめたまえ

ここで司式者が次のように言うとき、かたわらに立つ者の棺の上に土を投じる。

全能の神、大いなるあわれみをもつて、我らが愛するこの兄弟を召したまいたれば、今そのかばねを地にゆだね、土を土に、灰を灰に、ちりをちりにかえし、終わりの日のよみがえりと後の世の命とを主イエス^{II}キリストによりて堅く望む。主イエス世をさばかんとて大いなる威光をもつて再びきたりたもうとき、万物をおのれに従わせうる力をもつて、主にありて眠れる者の卑しきからだを変え、その栄光のからだにかたどらしめたもうべし

ここで司式者は次の語を歌いまたは唱える。

天より声ありて我にも言うを聞けり。いわく、なんじこの言葉をしるせ。今よりのち主にありて死ぬる死人は幸いなり。御霊も言いたもう、彼らはその働きをやめて休まん

司式者 主よ、あわれみたまえ

会衆 キリストよ、あわれみたまえ

司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ アーメン

司式者は言う。

我ら祈るべし

神よ、主のいつくしみは量りがたし。願わくは 世を去りし主のしもべ（――）のためにささぐる祈りを聞こし召し、彼を光と喜びの御国に至らせ、聖徒の交わりに入ることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

我らの主イエスキリストの父、あわれみ深き神よ、主イエスは、我はよみがえりなり、命なり、我を信ずる者は死ぬとも生きん。おおよそ生きて我を信ずる者は、とこしえに死なざるべしと教え、また主にありて眠れる者につきて、望みなき人のごとく嘆くなかれと 使徒聖パウロによりて教えたまえり。願わくは父よ、我らを罪の死より義の命によみがえらせ、この世を去るとき、主イエスにありて安らかにいこうことを得させたまえ。御子、我らの救い主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

願わくは世を去りし者の魂、主のあわれみによりて安らかにいこわんことを。アーメン

火葬、水葬の時にもこの式を用いる。火葬の時には、「今そのかばねを地にゆだね、土を土に、灰を灰に、ちりをちりにかえし」とあるのを「今そのかばねを火にゆだね」とし、水葬のときには、「今そのかばねを海にゆだね」とする。

遺骨埋葬の時には「今その遺骨を地にゆだね、土を土に、灰を灰に、ちりをちりにかえし」と言う。

墓地聖別

埋葬するときは「女より生まれし者」の前に司祭は次の祈りを用いる

主イエス・キリストよ、主はヨセフの備えし新しき墓にねむり、これを御民のため
めに望みの伏しどとして清めたまえり。願わくはこの墓地を清め、ここに葬らる
るしもべらの休み所となして、彼らを安らかにいこわせたまえ。主はよみがえり、
また命にして、父と聖霊とともに世々限りなく統べ治めたもうなり。アーメン